



八楯朝吉さんとわら細工
(生涯学習センター)

**わら細工をとおして
伝えたいこと**

「昔は、ぞうりや荷縄などの必需品は自分で作って使うのが当たり前でした」と話す八楯さん。また、幼少期には親が作ってくれたものに温かさを感じながら、元気に学校に通ったものだそうです。小学校高学年にもなると、今度は親に教わりながら、自分でぞうりなどのわら細工を作って使っていました。

「自分のぞうりくらいは自分で作り、歩いて行ける人になってもらいたい」

わら細工愛好会が伝え、残していきたい思いは、自分の人生に達成感と自信を持って、歩いていくことかもしれません。



発掘!
ふながたのお宝

時代をつなぐわら細工

ふながたの「お宝」。
舟形町のもの、人、場所などをシリーズで紹介していきます。第8弾は「舟形町わら細工愛好会」です。

友人から誘われて参加しました。今では楽しくて、夫婦で仲良く作っています。鍋敷きは人にあげても喜ばれますよ。



はげご

知人の作品でわら細工愛好会を知りました。初心者ですが、いつかはわらじを作ってみたい。



芳賀 耕介さん
(新庄市)



鍋敷き



わらじ



長澤 ひさ子さん
(長沢第1)

<わら細工講座>

わら細工に興味のある方を募集しています。一緒にぞうりやはげごを作ってみませんか。

▼日 時/毎週火曜日 午前9時~正午

▼場 所/生涯学習センター

▼対 象/どなたでも ※初心者の方も大歓迎

▼受講料/無料

▼問い合わせ/

舟形町生涯学習センター ☎(32) 1 8 8 0



**<町制施行70周年記念事業
しめ飾りづくり講座>**

▼日時・場所/

12月14日(木) 農村環境改善センター

12月15日(金) 生涯学習センター

12月17日(日) 中央公民館

12月20日(水) //

※4日とも午前9時~正午

▼対 象/町民の方

▼参加費/200円(材料代)

▼持ち物/ハサミ、カッター

▼講 師/舟形町わら細工愛好会

▼切 日/12月8日(金)

▼問い合わせ/

舟形町教育課社会教育係

☎(32) 2 2 4 6



舟形町わら細工愛好会

舟形町わら細工愛好会は、町内のわら細工が得意な仲間が設立され、舟形町生涯学習センター内のわら工芸室にて、わら細工の制作・伝承活動を行っています。主にわら細工講座を開催していて、町内だけでなく県内各地からその技術を学ぶために、多数の参加者が集まります。年末には、町内の正月用の門松やしめ縄飾り作りなどの講師として各地区で指導を行うほか、制作したぞうりを町内の子どもたちに寄贈するなど、若い世代へわら文化を伝承する活動も行なっています。

こうした活動実績から、山形県の未来を担う子どもたちに、雪国の文化や冬の楽しさを伝える個人や団体が選ばれる「やまがた雪文化マイスター」として認定されています。愛好会の設立のきっかけは、代表の八楯朝吉さん(内山)らの子ども時代には必需品であったわら細工を作れる人が、少なくなることを残念に思っていたことでした。

**生活に不可欠だった
わら細工**

町では昔から稲作が盛んで、稲はわらとして活用されてきました。わらは、牛や馬などの家畜の餌としたり、わら細工に加工されました。わらは、現在のような様々な素材や製品がなかった時代に、手に入りやすく、融通の利く便利な素材として重宝されました。外を歩くために履いた「ぞうり」や「わらじ」、収穫した米を入れる「俵」、荷物を縛り背負うための「荷縄」、風雨や雪から身を守る「みの」、雪を踏んで道を作る「雪踏み俵」など、どれも生活に不可欠な道具です。わら細工は人々の生活を守り、豊かにしながら時代をつないできました。

わらができるまで

- ① 稲をはせがけし、乾燥させる
- ② 稲を脱穀し、わらにする
- ③ わら槌で打ち、柔らかくする

もいえるでしょう。現在では正月のしめ縄飾りのほか、「鍋敷き」や「猫ぢぐら」などの民芸品が改めて注目され、商品化もされるなど、若い世代からも人気を集めています。



わら槌でわらを打ち
矢野輝雄さん(野)